

11日(木)に、三崎小学校の5年生が、東京大学准教授の北川貴士先生によるマグロの授業を受けました。その内容の一部を紹介します。

・導入は、身近な寿司の話から。続いて、マグロの種類の話に移りました。世界には8種類のマグロがいます。クロマグロをはじめ、メバチマグロ、ミナミ(インド)マグロ etc.また、マグロの寿命は、25年~30年くらいだそうです。卵の大きさは1mmくらいで、クロマグロは、最大3mくらいにまでなるといことです。マグロは、スズキ目のサバ科、カジキは、同じスズキ目ですが、マカジキ科やメカジキ科ということで、生物学的には、イヌとネコくらい違うそうです。



・マグロは、体温の高い魚で、水温が19℃くらいでも、マグロの内部は30℃くらいあり、魚の中では珍しいそうです。マグロのメスにとって、「母になるのは命がけ」だそうです。生まれた子どもが、水温が低いと育たないので、苦しい思いをして、南の海まで移動して産卵するということです。

・対馬で捕獲したマグロに機械を埋め込んで、放流したところ、2年後、アメリカ西海岸で捕獲されたそうで、その機械を分析した結果、マグロが2か月で、太平洋を渡っていたことが分かりました。1日100kmほど移動したことになります。また、マグロが「泳いでいないと死んでしまう」というのは、マグロが、泳ぐことによって海水を取り入れ呼吸することからいわれていて、マグロを釣った後、泳いでいなくても、ホースで海水を口に流すと、しばらく生きていくということです。背びれは、ふだんは引っ込んでいて、カーブするときだけ出てきて、舵の役目をするなど、子どもたちも驚く話が多くありました。



・授業後のインタビューで、子どもたちに授業を通して何を伝えたいかを聞かれた北川先生は、「子どもたちに、魚の生きざまを知ってもらうことによって、自分なりの生命観を持ってほしい」とおっしゃっていました。

児童の感想より ・マグロはすごく大きいのに、卵は1mmっていうのにビックリしました!

- ・メダカの卵よりも、マグロの卵の方が早くふ化することを知っておどろきました
- ・北川先生の授業で、クラスでわからなかった疑問が解決して良かったです。
- ・マグロが泳ぐのをやめると、息ができないのは知っていたけど、理由がわからなかった。それは、えらの筋肉のせいだとわかった
- ・私は、おじさんがマグロの漁師をしているので、1年に1回くらい食べられるけど、マグロのことをあまり知らなかったの、海洋教育の勉強をして、もっと知りたいです。今度は、おじさんにいっぱい聞いて、マグロの知識をもっと身につけたいと思いました

(文責 事務局長 渋谷)